様式第２号（第４条関係）

豊明市行政評価制度　「事務事業」評価票

１■事務事業の概要

１－１事務事業の名称	茶室「欅庵」利用推進事業							
１－２担当	部	教育部	課又は施設	文化会館	係	文化振興係	評価票作成者	文化振興係長　蟹江　忠夫

１－３総合計画における施策の体系	①節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」	③基本施策	文化・芸術活動	コード	4―1―1
			④単位施策(中)	文化施設の充実	コード	4―1―2―3
	②項	生涯学習の推進	⑤単位施策(小)	茶室「欅庵」の充実	コード	4―1―2―3―2
１－４事務事業の目的の精査	対象と対象の数	「お茶」という日本の伝統文化を守り、伝えたいという意識のある市民。または、「お茶」に親しみ、文化に触れたい意識のある市民。	意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	本格式な茶室である「欅庵」を気軽に利用してもらう事で、日本古来の文化をより深く再認識してもらう。そして文化意識を向上させる。更なる文化の担い手を育成する。		
１－５事務事業の内容	本格的な造りの茶室である「欅庵」を気軽に、多くの市民に利用していただく事を目的とする。そのためには、本格茶室の特色を活かしつつ､気軽に利用できるよう施設を改善する事、そして気軽に利用できる機会（お茶会）を企画する事が取り組みの特徴である。					

２■事務事業実施の状況

	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
平成18年度	市民へ広く周知させる事へ主眼を置き、ＨＰ・催し物案内を使ってＰＲに努めた。	広く普及させるため気軽に利用できる形態にするという考えと、「お茶」という伝統文化を元の形をできるだけ損なわずに守るという考えがある。	呈茶に関しては、市民が直接茶道の先生より茶道の心得を享受できる事もあり、好印象を与えている。
平成19年度	より利用しやすい施設にするために、広間の床を修理した。足の悪い方のために、立礼席のPRに努めた。	〃	〃
平成20年度	呈茶のある日は、案内板を設置した。	〃	〃
平成21年度	呈茶のある日の案内版の設置・館内モニターでのＰＲを行った。	〃	〃
平成22年度	呈茶に関しては、気軽に利用できる形態と伝統文化を元の形を損なわずに守るという考えがあり、市民が直接茶道の先生より茶道の心得を享受できる事もあり、好印象を与えている。		
平成23年度	〃		
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

２－１事務事業の実施における基本認識

	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
２－２総合計画における単位施策成果指標	茶室「欅庵」利用者数（人）	６４０(人)	７００（人）	呈茶及び専用利用数を増加することを目標値に設定(みどりの文化祭・豊明まつり・老人作品展・文化講座は除外する)

	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－３成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析） 活動実績ａ(単位)	600(人)	860(人)	1,043(人)	1,053(人)	859（人）	1,020（人）				
直接事業費ｂ（千円）	650	668	650	650	638	640				
人件費ｃ（千円）	670	667	662	646	626	614				
合計コストｄ(ｂ＋ｃ)（千円）	1,320	1,335	1,312	1296	1264	1,254				
単位コストｄ／ａ（千円）	利用者当たり　2	利用者当たり　1.5	利用者当たり　1.3	利用者当たり　1.2	利用者当たり　1.5	利用者当たり　1.2	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 →

直接事業費は、茶席開設委託料（500千円）・消耗品代・臨時職員賃金（年間160時間×800円）。人件費は年度内の関わり（事務分担表）から０．1人として平成23年度は算定した。

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	600	860	1,043	1,053	859	1,020				
	後期目標値に対する達成度（%）	85.7	122.9	149.0	150.4	122.7	145.7				

３■事務事業の自己評価結果

３－1　評価結果(アウトカム自己分析)		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度担当課評価	A	A	A	A	A	A				

● ４段階評価結果　Ａ ： 上位目的である施策に貢献しているので継続する
Ｂ ： 事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
Ｃ ： 縮小等、事務事業としての見直しが必要
Ｄ ： 事務事業の廃止が相当

● 判断の基準　①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
３－２評価の内容	平成18年度	多くの市民に親しんでもらうため、より気軽に利用できる形態が望まれるが、茶室の特殊性とどこまで折り合いをつけるかが問題となる。	使用しやすい施設にするための改善（水禽窟の修理・広間の床の修理）	ＰＲに努めたが、まだまだ市民の認識不足。さらなる周知を図る。
	平成19年度	〃	利用しやすい施設にするための改善(利用に応じての立札席の設置、庭園の景観の維持	専用利用者が増えてきている。呈茶も団体利用があり、更なる周知を図る。
	平成20年度	〃	効果的に呈茶をPR出来るよう、催し物のある日・.時間に目につくような場所に案内板を置く。	案内板を置くことにより、催し物を観に来た方が、呈茶に行くようになり効果があったと思う。
	平成21年度	〃	より気軽に、特に初めて体験する方を呼び込むため、ＨＰ等で実際の呈茶の様子の画像を掲載する等を行う。	案内板や館内モニターでのＰＲ等により利用者も増え、また、専用利用も増加し効果があったと思われる。
	平成22年度	多くの市民に親しんでもらうため、より気軽に利用できる形態（呈茶目呈以外での利用）も望まれるが、茶室の特殊性とどこまで折り合いをつけるかが問題となる。引き続き案内板や館内モニターでのＰＲをする。茶室の有効利用を図るためには、生け花（講座・教室）等での利用も検討したい。		
	平成23年度	〃		
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

４■事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
４－１総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度	A	継続して事業を進めること。
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		